

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

## 論文以外のコンテンツ

雑誌名	白山法学
号	11
発行年	2015-03-20
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00006989/">http://id.nii.ac.jp/1060/00006989/</a>



# 白山法学

2015年  
第11号

——藤村 啓教授退職記念号——

---

## 論 説

■間接正犯における実行の着手

萩 原 滋

■要件事実原論ノート 特別章その1

橋 本 昇 二

■超短波放送局（コミュニティFM放送局）に関する法社会学研究  
——東日本大震災を契機に——

相 川 修

■受領不能を原因とする供託と弁済の提供との関係

熊 田 裕 之

■債権者代位訴訟における被保全債権の調査について

坂 本 恵 三

## 活動報告

■法科大学院専任教員による市民講座  
——笠懸公民館「憲法を学ぶ講座」

佐 藤 修一郎

---

## 研究業績

---

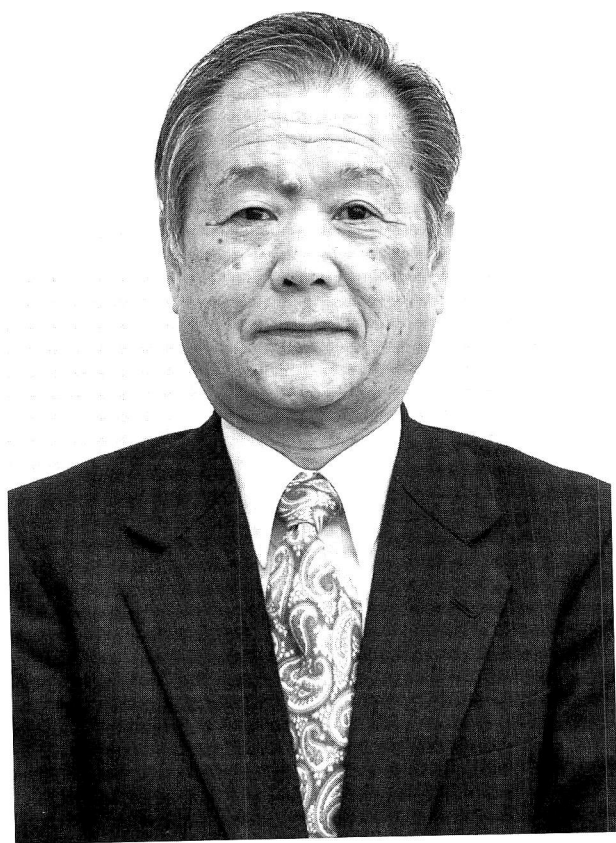
東洋大学法科大学院

# 白山法学

第11号

—— 藤村 啓教授退職記念号 ——

東洋大学法科大学院



藤村 啓 教授 近影

## 献呈のことば

藤村啓先生が、本年3月で定年を迎え退職されます。藤村先生のこれまでの本法科大学院におけるご尽力とご貢献に対して、心から感謝の意を表するとともに、惜別の思いを込めて『白山法学第11号』を献呈させていただきます。

藤村先生は、昭和46年に早稲田大学大学院法学研究科修士課程を修了された後、司法試験に合格され司法研修所での修習を経て、裁判官として任官し、法曹の道を歩んでこられました。昭和49年に判事補として山形地方裁判所に赴任されたのを振り出しに、訟務検事として法務省への出向、東京地方裁判所判事、東京高等裁判所判事を経て、平成16年に那覇地方裁判所所長に就任され、平成18年から東京高等裁判所部総括判事を務められたのを最後に平成22年に退官され、その後は弁護士として活躍されています。

平成24年に本法科大学院に実務家教員として赴任されてからは、学生、修了生を熱心に指導して下さいました。藤村先生にご担当いただいた科目は、法学概論、民法債権演習Ⅰ、民法債権演習Ⅱ、民事訴訟法演習、民事法総合演習Ⅰ、民事法総合演習Ⅱです。

この3年間藤村先生が、本法科大学院の学生に伝えてきたのは、法と証拠に基づき事実を踏まえて現実に即したバランスの良い解決策を導き出すことの重要性でした。何回か授業を参観させていただきましたが、先生は、まさに練達の実務家教員として、学生が謙虚に事実と対峙し、事実を正確に把握した上で自分の頭で考え、判断することを学ぶことができるようにするために様々な工夫をなさっていました。

正課の授業で精力的に学生を教育して下さいしたのはもちろん、藤村先生は、課外においても「めだか」と名付けた法学未修者の学習会を企画し、常に訴訟を意識しながら実体法を勉強するという法律学の正しい学び方を丁寧に指導して下さいました。「めだか」で藤村先生の警咳に接すること

ができたおかげで救われた法学未修者は、相当数に上るはずです。

藤村先生が着任なさった時期はまた、法科大学院を取り巻く環境が、一段と厳しさを増した時期でもありました。先生は、法曹養成制度についても独自の考えをお持ちで、法科大学院が直面する難局を打破するための様々な方策もご提案下さいました。努力もむなしく残念な結果を迎えることとなりましたが、先生からご提案いただいた東洋大学で法曹を養成する体制をぜひ実現し、今後も法科大学院の在学生、修了生を中心として法曹を輩出できるよう努力してまいります。

定年とはいえ、このような時期に先生をお送りしなければならないことは誠に残念ですが、今後とも本法科大学院への変わらぬご指導とご助言を賜りますことをお願いし、あわせて藤村先生のますますのご活躍とご健勝を、先生がお育てになった「めだか」たちともども祈念いたします。

2015年3月

東洋大学法科大学院 院長

坂 本 恵 三

# 藤村 啓 教授 退職記念号

---

## 目 次

### 論 説

#### ■間接正犯における実行の着手

萩 原 滋…………… ( 1 )

#### ■要件事実原論ノート 特別章その1

橋 本 昇 二…………… (23)

#### ■超短波放送局（コミュニティFM放送局）に関する法社会学研究 —東日本大震災を契機に—

相 川 修…………… (71)

#### ■受領不能を原因とする供託と弁済の提供との関係

熊 田 裕 之…………… (145)

#### ■債権者代位訴訟における被保全債権の調査について

坂 本 恵 三…………… (165)

### 活動報告

#### ■法科大学院専任教員による市民講座—笠懸公民館「憲法を学ぶ講座」

佐 藤 修一郎…………… (177)

---

## 平成26年度専任教員の研究業績

平成26年1月1日から平成26年12月31日までの研究業績を掲載する。

○坂本恵三

「請求の客観的予備的併合と控訴審の審判対象」 梅善夫先生・遠藤賢治先生古稀祝賀『民事手続における法と実践』成文堂（平成26年3月）

○熊田裕之

「マンション法の解説－区分所有法」改訂第2版 ネットスクール出版（平成26年8月）

○寺 洋平

「注釈地方自治法〔全訂〕」成田頼明ほか編 追録146-150号 第一法規（2014年3月）

「判例から考える行政救済法」岡田正則・榊原秀訓・本多滝夫編 248-262頁 日本評論社（2014年9月）

○萩原 滋

「刑法における自己決定の自由」曾根威彦・田口守一先生古稀祝賀論文集上巻（平成26年3月）

「公務員職権濫用罪の成否」刑法判例百選Ⅱ（平成26年8月）

「刑法概要」〔総論〕第3版（平成26年12月）

「刑法概要」〔各論〕第4版（平成26年12月）

○橋本昇二

「要件事実原論ノート（第6章）」白山法学第10号1～42頁（平成26年3月）

○藤村知己

「デッドロック状況の会社の意思と存続・解散—小規模閉鎖会社における対等出資者間の対立—」白山法学第10号43～70頁（平成26年3月）



○松井英樹

「違法な剰余金配当の効力について」白山法学第10号71～111頁（平成26年3月）

『新・会社法講義／現代企業と法の展開』西脇敏男監修・永田均編（共著）7章「株主総会の運営をめぐる訴訟」、8章「会社機関の意思決定・監督」担当109～150頁 八千代出版（平成26年7月）

「従業員の手形濫発を招いた取締役は、手形所持人に対して損害賠償責任を負うか」、「設立中の会社名義で約束手形を振り出した場合は有価証券の偽造に当たるか」『誰にもわかる手形・小切手の手引 追録47号』新日本法規出版（平成26年11月）

「無権代理人が受取人白地で振り出した約束手形についての責任はどうなるか」、「従業員が手形を濫発し会社に損害を与えたときに、業務を一任した取締役は責任を負うか」、「受取人が個人であるのに法人の裏書がある場合はどうすべきか」手形・小切手実務研究会編『問答式手形・小切手の実務 追録64・65号』新日本法規出版（平成26年11月）

○吉田秀康

「いわゆる『宅下げ』に関する検察官らの行為について、弁護人の接見交通権を侵害する違法があったとした事例」白山法学第10号113～179頁（平成26年3月）

「傍聴人に聞こえない証人尋問と裁判の公開—レベタ判決から25年、裁判の公開は大きく後退したのか」季刊刑事弁護80号 現代人文社（平成26年10月）

## 執筆者紹介

2015年3月現在

萩原 滋	東洋大学法科大学院教授
橋本 昇二	東洋大学法科大学院教授
相川 修	東洋大学法科大学院教授
熊田 裕之	東洋大学法科大学院教授
坂本 恵三	東洋大学法科大学院教授
佐藤 修一郎	東洋大学法科大学院教授

## 編集後記

つい先ほど、昨年の司法試験に最高齢で合格した65歳の男性の記事に接し、学問に対する真摯な姿勢に感銘を受けた。福岡市職員として、同市東区長も務めた方で、定年退職を前に、「まだ役に立てる」と思っても居場所を失う寂しさ、学園紛争で満足に勉強できなかった学生時代を思い返し、「法科大学院で学びたい」と第二の人生へ挑戦したとのこと。「調べないと分からないことがあるのが楽しい」と興味を持つと、はまり込み、授業の予習に3～8時間の予習、学期の終わりまでに体重が7キロ落ちたこともあったそうだ。

「20歳代の学生と同じ目線にならなければ」と、Twitterで情報交換しながら学修を続け、机の前に座ると食事まで休まず、やがて腰痛で座れなくなり、注射して試験に臨み、2度目の挑戦で合格を勝ち得た。修習後の就職先のあてはなく、退職金を学費に費やし、先々への不安もよぎるが、迷いを断ち切る。「20代だって明日どうなるのかは分からない。何をいまさら、と諦めたら意味がない」と語り、いつか高齢者の問題に詳しい弁護士に。「同年代だから相談者の思いが理解できるはず」と自分にしか歩めない道を踏みしめておられる。

学問を追及して楽しむことができる姿勢、他人と接して、お互いを高め合う柔軟性・協調性、また何よりも高いモチベーションを維持しながら自分の夢に向かって挑戦し続けることが、どの世界においても物事をなすために必要な要素であることを再認識させられた。

さて、本学法科大学院の教育にご尽力いただいた藤村啓先生の退職記念号として、白山法学第11号を刊行する運びとなった。課外講座である「めだかせミ」において、未修学生に対して法的な思考方法を教授されるとともに、学び知ることの歓びを涵養しようと努められてきた藤村先生の姿勢に、心より敬意を表するとともに、先生を失う寂しさと、引き継がなければという焦りに駆られる思いである。先生のこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げたい。

(松井)

## 東洋大学法科大学院 教員一覧

(2015年3月現在)

院長	坂本 恵三	教授
院長補佐	佐藤 修一郎	教授
	相川 修	教授
	上田 智司	教授
	熊田 裕之	教授
	小杉 公一	教授
	後藤 仁哉	教授
	田中 信義	教授
	寺 洋平	教授
	萩原 滋	教授
	橋本 昇二	教授
	藤村 啓己	教授
	藤村 知己	教授
	松井 英樹	教授
	吉田 秀康	教授

(50音順)

本学法科大学院教授 前田 恵三先生が平成26年12月12日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

---

2015年3月20日 発行

非売品

発行者 東洋大学法科大学院  
法科大学院長 坂本恵三

発行所 東洋大学法科大学院  
〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28番20号  
電話 (03) 3945-7251

印刷所 薦友印刷株式会社  
〒113-0001 東京都文京区白山1-13-8  
電話 (03) 3811-5343

---

# HAKUSAN HOGAKU

## TOYO LAW REVIEW

March 2015

### Articles

Der Versuchsbeginn bei mittelbarer Täterschaft  
HAGIWARA, Shigeru ..... (1)

Notes on the Principles of "Yoken-Jijitsu" Special Chapter 1  
HASHIMOTO, Shoji ..... (23)

L'étude sociologique de la loi sur la radiodiffusion ultraondes  
courtes.  
AIKAWA, Osamu ..... (71)

Die Nichtannahme als Hinterlegungsgrund  
KUMATA, Hiroyuki ..... (145)

Über die Prüfung der Forderung des Klägers an seinen  
Schuldner bei der Klage auf Grund des § 423 jap. BGB  
SAKAMOTO, Keizo ..... (165)

### Reports on Social Activities

Rapport d'activité sur le cours public par le professeur de "TLS"  
SATO, Shuichiro ..... (177)

---

### Reports on Academic Activities

---

Published by  
Toyo University Law School  
Tokyo, Japan